



## 貧困と飢餓，世界の問題

明治大学農学部農芸化学科 3年

竹野 駿

私はこのプログラムを通して主に2つのことを学びました。1つめは、飢餓、貧困といった問題が世界にはまだまだ存在しているということです。私にとってこれらの問題はこのプログラムに参加していなければ知ることのなかった事実かもしれません。また、その問題を解決するにあたってさまざまな障壁が存在し、解決することが困難であるということをプレゼンテーション資料作成中に目の当りしました。食糧の生産量を上げる、お金を分配する、先進国の技術を途上国に提供するといった単純なことでは解決できません。その国の文化、習慣また歴史までも考慮しなければなりません。世界の貧困、飢餓はとても深刻な問題であることを思い知らされました。

2つ目は、チームで何かを作り上げる難しさです。本プログラムのメインは国際連合の組織の1つ国連食糧農業機関（FAO）でのプレゼンテーションです。そこでは1つのチームが1つのアジアの国の代表として与えられたテーマに沿ってプレゼンするという内容でした。プログラムが始まった当初は、チームが揃うことが少なく資料作成が進みませんでした。さらに英語でのプレゼンということもあり、プレゼン内容と英語力、この2つの課題でかなり悩まされました。しかし、最終的にはチームで一致団結でき、最高のプレゼン資料を作ることができました。

最後にこのプログラムを通して、私の国際的な視野が大きく広がり、価値観も変化したと思います。そして、タイの学生、明治大学政治経済学部の交換留学生、そしてこのプログラムに参加した農学部仲間、彼らからたくさんの刺激を受けました。このプログラムが私の人生のターニングポイントだと言っても過言ではないと思います。そう思えるほど、国際農業文化理解プログラムは本当に素晴らしい機会です。これからは、このプログラムで得たものを生かして、世界に貢献していきたいと思います。